

2013年 オフィシャルソフトボール ルールの 改正点

ルール1. 用語の定義(ルールブック P・16)

I-40項 故意四球(INTENTIONAL BESE ON BALLS)とは、守備側チームが投球せずに故意に打者を一塁に歩かせるため、投手、捕手、あるいは監督が、球審にその旨を通告することをいう。

(注1) 通告は投球とみなされ、四球を与えるのに必要な投球数がカウントされる。

(注2) 通告は、打席の初めでも、いかなるボールカウントのときでも行うことができる。

(注3) 故意四球が球審に通告されると、ボールデッドとなり、走者はフォースのとき以外は進塁できない。

(注4) 2人の打者に故意四球を与えたいときは、最初の打者が一塁に達するまでは、2番目の打者を歩かせることはできない。

ルール5. 試合と打ち合わせ

5-5項 得点差コールドゲーム(ルールブック P・49)

3回15点、4回10点、5回以降7点以上の差が生じたときは、得点差コールドゲームとする。

ルール6. 投球

6-8項 故意四球

守備チームが、投球せずに故意に打者を一塁に歩かせるため、投手、捕手、あるいは監督が、球審にその旨を通告することをいう。

(注1) 通告は投球とみなされ、四球を与えるのに必要な投球数がカウントされる。

(注2) 通告は、打席の初めでも、いかなるボールカウントのときでも行うことができる。

(注3) 故意四球が球審に通告されると、ボールデッドとなり、走者はフォースのとき以外は進塁できない。

(注4) 2人の打者に故意四球を与えたいときは、最初の打者が一塁に達するまでは、2番目の打者を歩かせることはできない。

ルール8. 走塁

8-1項 打者が打者走者になる場合

3. 打者が四球を得たとき

(効果)3

(1) 打者には一塁への安全進塁権が与えられる。

(2) 球がブロックされない限り、ボールインプレイ。(故意四球の場合は除く)

(3) 故意四球の場合は、ボールデッド。他の走者はフォースのとき以外は進塁できない。

ルール9. ボールデッドとボールインプレイ

9-1項 ボールデッド

33. 打者が故意四球を得たとき。

34. ボールインプレイになる場合を除くすべてののとき

ルール12. 記録

12-2項 ボックススコア

2. 各プレイヤーの打撃および守備の記録は一覧表にしなければならない。

(5)第5欄は、各プレイヤーの試合中の打数を記録する。

次のような場合は、打数に加算しない。

③ 四球(故意四球を含む)で一塁への安全進塁権が与えられたとき。

12-3項 要約(ルールブック P・108~109)

1. 要約は次の項目が記載されていなければならない。

(16)投手についての要約は以下の項目を含む。

②各投手の投球数(故意四球も投球数にカウントされる)。

⑥各投手の与四球数(故意四球を含む)。

12-8項 打点(ルールブック P・112)

5. 走者満塁で打撃妨害、走塁妨害あるいは死球または四球(故意四球を含む)で打者が安全進塁権を与えられ走者が得点したとき。

12-15項 自責点(ルールブック P・116)

自責点とは、投手が責任を持たなければならない得点である。攻撃側のプレイヤーを3人アウトにできる機会をつかむ前に、安打、犠牲バント、犠牲フライ、盗塁、プットアウト、野手選択、四死球(故意四球を含む)、暴投、不正投球により走者が得点するたびに記録される。

12-16項 勝利投手(ルールブック P・117)

投手は次のような場合に勝利投手になる。

2. 先発投手は、3回または4回で終了した試合は2回、5回、6回で終了した試合は3回の投球を完了し、交代するとき自チームがリードしているのみでなく、そののちタイまたはビハインドになることなく、そのリードが維持されたとき。

12-20項 無安打無得点試合(ノーヒット・ノーラン)

(注2)出塁する可能性のある走者は、四球(故意四球を含む)・死球・失策・野手選択・打撃妨害・一塁への走塁妨害・守備妨害・・・三振振り逃げおよびタイブレーカーの走者である。

2013年 競技者必携の改正点

2 統一記号(競技者必携 P136)

(1)統一記号一覧表

打者等 故意四球 IB Intentional **Base** on Balls

(2)統一記号の記入例

③安打以外での出塁

事例25 カウント1-1後、故意四球を通告(**スローピッチのみ**)←削除